

第 45 回ペプチド討論会プログラム

第 1 日 10 月 29 日 (水)

若手口頭発表

(5F 大ホール)

(講演 10 分、討論 3 分)

9:00-9:10 開会の挨拶 (野水基義)

9:10-10:15 (座長 佐藤 孝、今野博行)

Y-01 求核的 CF_3 化反応による立体選択的トリフルオロメチルアルケン型ジペプチドイソスターの合成研究

○小林数也、鳴海哲夫、大石真也、大野浩章、藤井信孝 (京大院・薬)

Y-02 天然物合成を目指したモノデヒドロ環状ジペプチドの合成研究

○森 雄樹¹、山崎有理^{1,2}、小田暁子²、岡本玲子¹、永原 優¹、木曾良明²、林 良雄^{1,2} (¹東京薬大・薬、²京都薬大)

Y-03 N-置換型アニリン誘導体を用いたペプチドチオエステルの新規合成法の開発

○津田修吾、前田奈美、坂東清美、重永 章、大高 章 (徳島大院・薬)

Y-04 プロリンアナログとしてチアゾリジン-4-カルボン酸を含むコラーゲンモデルペプチドの合成

○辻智恵美¹、山本真梨子¹、粥見 啓²、中沢 隆^{1,2} (¹奈良女子大・院、²奈良女子大・理・化)

Y-05 Xaa-Ser / Thr 部位での新規ライゲーション法の検討

○小澤千那津、片山秀和、植木章晴、北條裕信、中原悠子、中原義昭 (東海大・工)

10:15-10:30 Coffee Break

10:30-11:50 (座長 堤 浩、重永 章)

Y-06 β アミロイドの毒性コンホメーションの同定

○増田裕一¹、上村諭子¹、大橋竜太郎²、中西 梓²、竹腰清乃理²、入江一浩¹ (¹京大・農、²京大・理)

Y-07 タイワンカブトムシ (*Oryctes rhinoceros*) のオリクチンの NMR 構造解析、機能解析

○堀田彰一朗¹、石橋 純²、山川 稔^{2,3}、永田宏次¹、田之倉優¹ (¹東大・院・農生科、²農生資研、³筑波大)

Y-08 ORL1 受容体の活性化に必須な膜貫通領域アミノ酸残基

○李 京蘭¹、磯崎 要¹、野瀬 健¹、Tommaso Costa²、下東康幸¹ (¹九大院理・化学、²伊・国立衛生研)

Y-09 19F-NMR を用いた 4(R)-fluoroproline を含むコラーゲンモデルペプチドに関する研究

○河原一樹¹、根本暢明²、元岡大祐³、佐藤のぞみ³、西 義則³、土井正光⁴、内山 進⁵、中沢 隆⁶、西内祐二⁷、吉田卓也¹、大久保忠恭¹、小林祐次³ (¹大阪大学薬学部、²日本電子(株)、³大阪薬科大学薬学部、⁴和歌山高等専門学校物質工学科、⁵大阪大学工学部、⁶奈良女子大学理学部、⁷(株)ペプチド研究所)

Y-10 種々の生物種由来 p53 四量体形成ドメインペプチドの熱安定性

○野村尚生、鎌田瑠泉、中馬吉郎、坂口和靖 (北大院・理・化学)

Y-11 『カモフラージュ置換』による蛍光標識アナログを用いた、内因性フェノールオキシダーゼ阻害ペプチド及びフェノールオキシダーゼ間相互作用の解析

○吉田莉菜子¹、栗田ちひろ²、高尾敏文²、佐藤 孝¹ (¹佐賀大・農、²阪大・蛋白研)

11:50-12:20 **教育講演** (座長 野水基義)
「笑いとプレゼンテーション」 (吉本興業株式会社)

12:20-13:00 **Lunch Break**

13:00-14:05 (座長 中馬吉郎、小出隆規)

- Y-12 ラーガゾールの全合成および生物活性評価
 ○沼尻佳孝¹、高橋孝志¹、高木基樹²、新家一男³、土井隆行⁴ (¹東工大院・理工、²J B I C、³産総研、⁴東北大院・薬)
- Y-13 固相担持ペプチドに対するリボソーム吸着の水晶振動子マイクロバランスによる解析とリボソームセンサーへの応用
 ○粕谷有造¹、野坂静香²、山田大輔²、池田泰之¹、松村一成² (¹芝工大院・工、²芝工大・工)
- Y-14 分子内レドックス反応を利用したフルオロアルケンジペプチドイソスターの合成
 ○八巻陽子、重永 章、大高 章 (徳島大院・薬)
- Y-15 糖タンパク質の化学合成
 ○田邊康孝、梶原康宏 (横浜市立大学大学院)
- Y-16 糖鎖化Ovomucoidの合成研究
 ○笹岡 俊、梶原康宏 (横浜市立大学大学院)

14:05-14:20 **Coffee Break**

14:20-15:25 (座長 中瀬生彦、矢野義明)

- Y-17 カプトムシディフェンシン由来改変ペプチドのマルチターゲット
 ○岩崎 崇^{1,2,3}、石橋 純²、田中博光²、佐藤 充²、朝岡 愛²、山川 稔^{1,2}
 (¹筑波大、²農業生物資源研究所、³日本学術振興会)
- Y-18 翻訳後チオエステル化反応を利用した主鎖環状非天然型ペプチドのリボソーム翻訳合成
 ○川上隆史¹、太田 淳¹、足海 洋¹、村上 裕²、菅 裕明^{1,2} (¹東大院・工、²東大・先端研)
- Y-19 リシン側鎖が複雑に修飾されたヒストンH3テールの翻訳合成
 ○湯澤 賢¹、姜 澤鎮²、菅 裕明^{1,2} (¹東大・工、²東大・先端研)
- Y-20 PKC C1b domain の蛍光修飾およびそのセンシングバイオロジー的応用
 ○大橋南美¹、野村 渉¹、加藤 舞^{1,2}、堤 浩¹、糸谷恭子¹、伊倉貞吉²、伊藤暢聡²、吉田清嗣³、Lewin Nancy⁴、Blumberg M. Peter⁴、玉村啓和^{1,2} (¹東医歯大・生材料研、²東医歯大・疾患生命、³東医歯大・難研、⁴NIH・NCI)
- Y-21 ラミニン α 2鎖のジストログリカン結合部位
 ○漆畑俊哉、保住建太郎、吉川大和、野水基義 (東薬大・薬)

15:25-15:40 **Coffee Break**

15:40-16:45 (座長 山田圭一、大石真也)

- Y-22 アミロイドベータ ($A\beta$ 42) オリゴマーと結合活性を有し線維化を阻害する線維状 $A\beta$ 42 ミミックペプチド
 ○田中孝一、西村優亮、瀧口 祥、北本 祥、橋口周平、伊東祐二、杉村和久 (鹿大・工・生体工)
- Y-23 細胞内送達のためのオリゴアルギニンのワンポット修飾法
 ○高山健太郎、田所明子、中瀬生彦、二木史朗 (京大・化研)
- Y-24 AG73 修飾リボソームの遺伝子導入におけるバブルリボソームと超音波の影響
 ○小俣大樹¹、根岸洋一¹、遠藤葉子¹、鈴木 亮²、丸山一雄²、野水基義¹、新槇幸彦¹ (¹東薬大・薬、²帝京大・薬)
- Y-25 新規ペプチド遺伝子ベクター: Disulfide cross-linked oligo arginine の設計と評価

○小河崇也¹、壽田有美子¹、金沢貴憲¹、高島由季¹、福田常彦²、岡田弘晃¹
(¹東薬大・薬、²長浜バイオ大)

Y-26 ラミニン-111 ペプチドを用いたペプチド-キトサンマトリックス

○小田切大¹、藤森 能¹、佐々木彩乃¹、若井優妃²、内田達也²、保住建太郎¹、
吉川大和¹、野水基義¹ (¹東薬大・薬、²東薬大・生命)

17:00-18:30 ポスター発表 (奇数番号) (2F 瑞雲・平安の間)

第 2 日 10 月 30 日 (木)

口頭発表

(5F 大ホール)

(講演 12 分、討論 4 分)

9:10-10:30 (座長 北條裕信、坂本 寛)

0-01 ペプチド性抗生物質リゾクチシン生産菌からの新たなジペプチド合成 L-アミノ酸
リガーゼの発見

○木野邦器¹、古田中洋一¹、矢ヶ崎誠² (¹早大・理工・応化、²協和発酵・生産技
術研)

0-02 ペプチド性抗生物質リゾクチシン生産菌からのオリゴペプチド合成新規 L-アミノ酸
リガーゼの発見

○新井利信、小窪雅弘、木野邦器 (早大・理工・応化)

0-03 赤外分光法によるトロポニン C カルシウム結合部位 III の合成ペプチドアナログの
解析: EF ハンドタンパク質の on/off 機構

○奈良雅之¹、森井尚之²、田之倉優³ (¹東医歯大・教養、²産総研、³東大院・農)

0-04 アミロイド前駆体蛋白質膜貫通-膜近傍部位の構造解析

○佐藤 毅¹、Tzu-chun Tang²、Gabriella Reubins²、Jeffrey Z. Fei²、藤本大樹¹、
玉垣裕子¹、Pascal Kienlen-Campard³、Stefan N. Constantinescu⁴、Jean-Noel
Octave³、Steven O. Smith^{1,2}、相本三郎¹ (¹阪大・蛋白研、²Stony Brook University、
³Institute of Neuroscience・Universite catholique de Louvain、⁴Ludwig
Institute for Cancer Research and de Duve Insitute・Universite catholique
de Louvain)

0-05 グラム陽性細菌 *Enterococcus faecalis* のゼラチナーゼ生合成活性化フェロモンの
構造活性相関

○永田宏次¹、西口賢三²、田之倉優¹、園元謙二^{2,3}、中山二郎² (¹東大・院農生
科、²九大・院農、³九大・バイオアーキテクチャーセンター)

10:30-10:50 Coffee Break

10:50-11:55 (座長 永田宏次、日高雄二)

0-06 Antimicrobial peptides acting against multi-drug resistant and bio-film forming
bacterial infections

Nari Jeong²、M. Abul Farah²、Hae-Kyun Park²、Yoonkyung Park^{2,3}、Kyung-Soo
Hahm^{1,2} (¹Department of Cellular Molecular Medicine, College of Medicine,
²Research Center for Proteineous Materials, and ³Department of Biotechnology,
Chosun University)

0-07 Analysis of antibacterial peptide activity using flow cytometry

Neil M. O' Brien-Simpson¹、Troy J. Attard¹、Katrina A. Walsh¹、Carrie Chen²、
Eric C. Reynolds¹ (¹CRC for Oral Health Science, Melbourne Dental School, The
University of Melbourne、²School of Dental Sciences, University of Liverpool)

- 0-08 三回対称グルタチオンコンジュゲートは水中で自発的にナノスフェアーに自己集合する
○松浦和則^{1,2}、寺本 崇¹、藤野敬介¹、村里和也¹、君塚信夫¹ (¹九大・院工、² JST さきがけ)
- 0-09 分子認識素子としてのペプチドライブラリーの構築と新規マイクロアレイ用基板の開発
○軒原清史¹、平田晃義¹、竹林恭志²、大山貴史¹、川崎平康¹、宮里苗子¹、兒玉由貴子¹、小野則子¹、荘巖哲哉¹、鈴木香苗¹、宮島 翠¹、岡 安夫² (¹ハイペック研究所、² 日本軽金属株式会社技術センター)
- 11:55-13:00 Lunch Break
- 13:00-13:50 日本ペプチド学会総会
- 14:00-14:30 奨励賞受賞講演 (座長 赤路健一)
- 14:30-15:10 Akabori Memorial Award 受賞講演 (座長 岡田芳男)
- 15:10-15:25 Coffee Break
- 15:25-16:05 招待講演 (座長 中村浩蔵、三原久和)
- K-1 Effects of asymmetric arginine dimethylation on RNA binding peptides. Methylation of the REV peptide either reduces or increases the binding affinity for RRE RNA
Jaehoon Yu (Department of Chemistry and Education, Seoul National University)
- K-2 Transcription factor-based molecular therapy for experimental hindlimb ischemia
Jonghoe Byun (Department of Molecular Biology, BK21 Graduate Program for RNA biology, Institute of Nanosensor and Biotechnology, Dankook University)
- 16:15-17:45 ポスター発表 (偶数番号) (2F 瑞雲・平安の間)
- 18:00-20:00 懇親会 (2F 福寿・桃源の間)

第 3 日 10 月 31 日 (金)

口頭発表
(5F 大ホール)
(講演 12 分、討論 4 分)

- 9:10-10:15 (座長 大高 章、坂口和靖)
- 0-10 カルシトニン受容体刺激ペプチドはカルシトニン・カルシトニン遺伝子関連ペプチド遺伝子より生成した哺乳類独自のペプチドである
○南野直人¹、尾崎 司¹、安江 博²、片渕 剛¹ (¹国立循環器セ研、²農業生物資源研)
- 0-11 異常アミノ酸含有海洋産ペプチド、カリペルチン B および E の全合成研究
○今野博行、野坂和人、赤路健一 (京都府立医大院)
- 0-12 南米産ガラガラヘビ *Crotalus durissus terrificus* 毒より得られた強力な鎮痛ペプチド crotalphine
○紺野勝弘¹、Gisele Picolo²、Vanessa Gutierrez²、Patrícia Brigatte²、Vanessa Zambelli²、Antonio C. M. Camargo¹、Yara Cury² (¹ブタンタン研・トキシノロジーセンター、²ブタンタン研・病態生理)

- 0-13 海洋細菌 *Pseudoalteromonas sagamiensis* が産生する酵素阻害剤マリノスタチンの合成
○泰地美沙子^{1,2}、山崎俊正³、木村皓俊¹、西内祐二^{1,2} (¹ペプチド研、²阪大院・理、³生物研・蛋白質機能U)

10:15-10:35 Coffee Break

10:35-11:55 (座長 二木史朗、野瀬 健)

- 0-14 腫瘍に蓄積する金ナノロッド開発
○新留琢郎^{1,2,3}、大賀 晃¹、新留康郎¹、森 健^{1,2}、片山佳樹^{1,2} (¹九大院・工、²九大・未化セ、³科学技術振興機構・さきがけ)
- 0-15 相補理論とコンピューターシミュレーションによる IgE 結合ペプチドのデザイン
○小島泰樹 (愛知県がんセンター愛知病院 外科)
- 0-16 CE-MS を用いたリガンドペプチドのハイスループットスクリーニング法の開発
○齋藤一樹^{1,2}、中戸真巳子³、水口貴章³、内村浩正¹、横山茂之^{2,4}、廣田 洋²、木曾良明³ (¹京都薬大・プロテオーム支援室、²理研 GSC・タンパク、³京都薬大・薬品化学、⁴東大院・理・生化)
- 0-17 位置特異的にコレステロール酸化物を修飾したアミロイドβ ペプチドの凝集能評価
○臼井健二^{1,2}、Evan T. Powers¹、Johan F. Paulsson¹、Sarah J. Siegel¹、Jeffery W. Kelly¹ (¹スクリプス研究所・化学科、²東工大院・生命理工)
- 0-18 NDSB によるペプチドの凝集防止
○若松 馨¹、武井彩香¹、稲岡斉彦¹、向 隴¹、小堀可奈子¹、加藤瀬里¹、河野俊之²、行木信一¹ (¹群馬大・工、²三菱化学生命研)

11:55-13:00 Lunch Break

13:00-13:40 招待講演 (座長 野水基義)

- I-1 角膜疾患とペプチド創薬
○西田輝夫 (山口大・医)

13:40-14:30 (座長 新留琢郎、向井秀仁)

- 0-19 コラーゲン様ペプチドのラットにおける体内動態解析
○安井裕之¹、松本浩明¹、上原美加¹、吉川 豊¹、小出隆規² (¹京薬大、²早大・先進理工)
- 0-20 血漿中生理活性ペプチド濃度のバイオマーカーとしての有用性
○片桐文彦¹、長井和之²、富田健嗣³、木田睦士²、大石真也³、伊東弘樹¹、土井隆一郎²、藤井信孝³、武山正治¹ (¹大分大病院・薬、²京大・医、³京大・薬)
- 0-21 イエバエ変態時におけるフェノールオキシダーゼ活性を調節する新規糖ペプチド
栗田ちひろ^{1,2}、吉田莉菜子¹、高尾敏文²、○佐藤 孝¹ (¹佐賀大・農、²阪大・蛋白研)

14:30-14:45 Coffee Break

14:45-16:05 (座長 玉村啓和、林 良雄)

- 0-22 AG73 ペプチド修飾バブルリポソームと超音波併用による遺伝子導入法の開発
○根岸洋一¹、角田由佳¹、濱野展人¹、遠藤葉子¹、高木教夫¹、鈴木 亮²、丸山一雄²、Choi jamts Batsuren³、江本 精³、野水基義¹、新槇幸彦¹ (¹東薬大・薬、²帝京大・薬、³福岡大・医)
- 0-23 フロックハウスウイルス由来アルギニンペプチドの効率的な細胞内移行
○中瀬生彦、広瀬久昭、二木史朗 (京都大学化学研究所)
- 0-24 新規蛍光ラベル法による膜受容体内在化の可視化
○矢野義明、松崎勝巳 (京大院・薬)

0-25 オピオイドアゴニストと NK1 アンタゴニスト活性を併せ持つ環状ペプチド誘導体の生理活性に関する研究

○山元 崇^{1,3}、Padma Nair¹、Tally M. Largent-Milnes²、Neil E. Jacobsen¹、Peg Davis²、Shou-wu Ma²、Edita Navratilova²、Josephine Lai²、Henry I. Yamamura²、Todd W. Vanderah²、Frank Porreca²、Victor J. Hruby¹ (¹Departments of Chemistry and ²Pharmacology, University of Arizona、³味の素(株)医薬研究所)

0-26 小分子ペプチドを基盤とした難病治療薬の創製研究

○林 良雄¹、山崎有理¹、西口茂信²、Thomas Regnier²、森 雄樹¹、田口晃弘¹、木曾良明² (¹東京薬大・薬、²京都薬大)

16:05-16:20 閉会の挨拶 (野水基義)

ポスター発表
(2F 瑞雲・平安の間)
(討論 90分)

奇数番号 10月29日(水) 17:00-18:30

偶数番号 10月30日(木) 16:15-17:45

取り付け: 29日 13:00までに
取り外し: 31日 13:00までに

- P-001 オルトジフェノールの酵素酸化によって生じるオルトキノンと蛋白質のアミノ酸残基の反応の、芳香族スルフィン酸による阻害
○平岡 厚(杏林大・保健)
- P-002 ホスフィニルジペプチドイソスターの立体制御合成
○春木晶充、森淳一郎、市川博之、山岸丈洋、疋島貞雄、横松 力(東薬大・薬)
- P-003 光学活性な α -シクロアルキルアラニンの合成およびキラリティーの決定
山田隆己¹、○奥村知子¹、水越梨奈¹、村嶋貴之¹、宮澤敏文¹、尹 康子²(¹甲南大・理工、²大阪薬大)
- P-004 α , α -ジ(2-ピリジル)グリシンを含むトリおよびヘキサペプチドの合成および配座解析
山田隆己、○西本義宏、村嶋貴之、宮澤敏文(甲南大・理工)
- P-005 α , α -ジ置換アミノ酸オリゴペプチドのコンフォメーション予測と解析
○栗原正明¹、佐藤由紀子¹、山縣奈々子¹、奥田晴宏¹、長野正展²、出水庸介²、土井光暢³、田中正一²、末宗 洋²(¹国立衛研、²九大院・薬、³大阪薬大)
- P-006 長鎖アルキル基を持つアミノ酸誘導体の合成とペプチド合成への応用
○鈴木 歩¹、鈴木康之¹、倉持真由子¹、稲津敏行^{1,2}(¹東海大・工、²東海大・糖鎖科学研)
- P-007 免疫刺激活性を持つグラム陽性菌由来リポペプチドの合成研究
○勝本麻美¹、藤本ゆかり¹、古屋舗舞子²、橋本雅仁³、隅田泰生³、深瀬浩一¹(¹阪大院・理、²鹿児島大・産学官連携推進機構、³鹿児島大院・理工)
- P-008 ピペコリン酸のコラーゲンモデルペプチド中における挙動
ソヌ ラム シャンカール¹、○田中雄二²、加藤珠樹¹、西野憲和¹(¹九州工大院・生命体工、²九州共立大・工)
- P-009 アジド基を有するキラル環状 α , α -ジ置換アミノ酸とそのオリゴペプチドの設計・合成
○高崎紘臣¹、田中正一¹、河辺直美¹、長野正展¹、土井光暢²、栗原正明³、末宗 洋¹(¹九大院・薬、²大阪薬大、³国立衛研)
- P-010 ジアステレオ選択的フルオロアルケンイソスター合成及びHIV膜融合阻害剤への応用
○神谷博貴、小寺泰代、鳴海哲夫、大野浩章、大石真也、藤井信孝(京都大・薬)
- P-011 マイクロ波促進による蛋白質の加水分解反応
○芳本智彦¹、松尾聡子¹、山岡伸也²、大内将吉¹(¹九工大院・生命体工、²新菱(株))
- P-012 マイクロ波照射下での蛋白質の酸加水分解反応の際のアミノ酸の分解挙動
○脇野大輔¹、中村博之¹、芳本智彦¹、山岡伸也²、大内将吉¹(¹九工大院・生命体工、²新菱(株))
- P-013 マイクロ波効果を利用したアミノ酸の誘導体化反応
松尾聡子、熊本竜太、芳本智彦、○大内将吉(九工大院・生命体工)
- P-014 アミノ酸71残基から構成されるニューレグリン1- β 1の合成
○柿澤多恵子¹、吉田(小出)静代²、木村 徹¹、水口貴章¹、内村浩正²、林 良雄³、齋藤一樹²、木曾良明¹(¹京都薬大・薬品化学、²京都薬大・プロテオーム支援室、³東京薬大・薬品化学)

- P-015 A novel ω -conotoxin FVIA from Korean cone snail
Seungkyu Lee¹, Juyeon Lee¹, Hyunho Jung¹, Jaeha Ryu¹, Sunghun Rho¹,
 Seung-Yeol Nah⁶, Hyewhon Rhim⁵, Hong-Won Suh⁴, Heung Sik Na³, Hyun-Jeong Kim²,
 Jae Il Kim¹ (¹Department of Life Science, Gwangju institute of Science and
 Technology, ²Department of Dental Anesthesiology, College of Dentistry,
 Seoul National University, ³Department of physiology, College of Medicine,
 Korea University, ⁴Department of Pharmacology, Institute of Natural Medicine,
 College of Medicine, Hallym University, ⁵Biomedical Research Center, Korea
 Institute of Science and Technology, ⁶Department of Physiology, College of
 Veterinary Medicine, Konkuk University)
- P-016 システイニルプロリンエステル (CPE) 法によるペプチドチオエステルの合成
 ○川上 徹、相本三郎 (阪大・蛋白研)
- P-017 自動液相ペプチド合成装置に向けた効率的な合成手法の開発
 ○阿部馨督¹、三上由鶴²、鶴山 愛¹、東口照昭¹、千葉一裕² (¹モリテックス、
²農工大・工)
- P-018 ペプチドチオカルボン酸の NCL 型ペプチドフラグメント順次縮合法への適用
 ○住川栄健、津田修吾、重永 章、大高 章 (徳島大院・薬)
- P-019 チオエステル法によるペプチド縮合に有用な新規アミノ基保護基の開発
 ○片山秀和、内海 匠、北條裕信、中原義昭 (東海大・工)
- P-020 最終脱保護反応に無水フッ化水素を用いた Boc 法による *O*- β -*N*-アセチルグルコサミン
 含有ペプチドの合成
 ○熊谷久美子¹、小川光貴²、亀村和生²、井坂秀司¹、豊島 正^{1,3}、占部倫子¹、
 山本敏弘¹、西内祐二^{1,3} (¹ペプチド研、²長浜バイオ大・バイオサイエンス、
³阪大院・理)
- P-021 ハリペプチン D の全合成
 ○坂口 昌、原 聡亮、牧野一石、濱田康正 (千葉大院・薬)
- P-022 C 末端修飾ペプチドの翻訳合成
 ○中島永二¹、村上 裕²、菅 裕明^{1,2} (¹東大・工、²東大・先端研)
- P-023 イソペプチド法：セグメント縮合法によるラセミ化フリーペプチド合成
 ○吉矢 拓、相馬洋平、木村 徹、木曾良明 (京都薬大・薬品化学分野)
- P-024 difficult sequence 含有ペプチドの効率的合成をめざした新規 *S*-アシルイソペプチド
 法の開発
 ○伊藤 縫、吉矢 拓、木村 徹、木曾良明 (京都薬大・薬品化学分野)
- P-025 ヒト Glycodelin の合成研究
 ○竹ノ内崇臣、北條裕信、片山秀和、中原悠子、中原義昭 (東海大・工)
- P-026 電位依存性プロトンチャネル (VSOP) (121-222) の合成
 ○中村健一郎、原 利明、金尾知樹、佐藤 毅、川上 徹、相本三郎 (阪大・
 蛋白研)
- P-027 Fmoc-アミノプロピルオキシ基を導入した 2-ニトロベンジルカルバメイト型リンカー
 の合成とペプチド精製への応用
 ○原 利明、田結莊明、川上 徹、相本三郎 (阪大・蛋白研)
- P-028 ネイティブケミカルライゲーション法とチオエステル法の併用を可能にするチオール
 保護基としてのメチルチオ基の利用
 ○赤井優一、竹村梨沙、青木優子、早稲田真澄、川上 徹、相本三郎 (阪大・
 蛋白研)
- P-029 エンドキャップ抗 HIV-1 ペプチド SC35EK の合成
 ○梶原一美^{1,2}、常盤 礼^{1,2}、渡辺健太郎²、大野浩章²、泉 和樹³、児玉栄一³、
 松岡雅雄³、大石信也²、藤井信孝² (¹京大・薬、²JST、³京大・ウイ研)
- P-030 アミノオキシ基とイソチオシアネート基の選択的化学反应とそれに続くエドマン分解
 を利用したペプチドの精製
 ○田結莊明、原 利明、中村健一郎、川上 徹、相本三郎 (大阪大学・蛋白質
 研究所)
- P-031 Development of surface display technique for the mass-production of antimicrobial

peptides using *Lactobacillus Casei*

Seung Pyo Hong², Byung Jo Chae⁴, Moon-Hee Sung^{2,3}, Kyung-Soo Hahm¹, **Yoonkyung Park¹** (¹Research Center for Proteineous Materials (RCPM), Chosun University, ²BioLeaders Corp., ³Dept. of Bio-Nanochemistry, Kookmin University, ⁴Kangwon National University)

- P-032 抗菌ペプチドの構造最適化
○児玉耕太¹、渡辺拓也¹、岸 直人²、石橋正也²、片岡泰文¹ (¹福岡大学・薬学部、²株式会社進化創薬)
- P-033 11 アミノ酸残基よりなるグラミシジン S の合成
○佐々木一郎¹、白根 綾¹、中尾有希¹、広地咲恵¹、藤田真悟¹、神藤光野²、木村雅浩²、打田良樹²、田巻 誠¹ (¹東邦大・理、²大阪樟蔭女子大・食物栄養)
- P-034 cis-D-Phe-Pro ペプチド結合を含むグラミシジン S 類似体の合成
○佐々木一郎¹、穀野 学¹、神藤光野²、木村雅浩²、打田良樹²、田巻 誠¹ (¹東邦大・理、²大阪樟蔭女子大・食物栄養)
- P-035 Ala 残基を含むグラチシン類似体の合成と性質
打田良樹¹、○木村雅浩¹、神藤光野¹、佐々木一郎²、藤田真悟²、白根 綾²、広地咲恵²、田巻 誠² (¹大阪樟蔭女子大・食物栄養、²東邦大・理)
- P-036 ラットヘムオキシゲナーゼ-2 が持つヘム調節モチーフの機能解析
○中島正太¹、東元祐一郎²、野口正人²、坂本 寛¹ (¹九工大院・情報工・生命、²久留米大・医・医化学)
- P-037 ヒト Serum Amyloid A の N 末端領域は脂質結合に重要な役割を果たす
○大田慎也¹、田中将史¹、川上 徹²、相本三郎²、斉藤博幸¹ (¹神戸薬大、²大阪大学・蛋白研)
- P-038 種々のアルギニン含有両親媒性ペプチドのデザイン、合成とその物性及び生理活性
井手博子¹、○青木成美¹、寺田成之¹、打田良樹²、黒木政秀³、李 相男¹ (¹福岡大・理、²大阪樟蔭女子大・食物栄養、³福岡大・医)
- P-039 プロリンミミックを含む[2', 6'-dimethyl-L-tyrosine]endomorphin-2 類似体のコンフォメーション解析
○津田裕子^{1,2}、宮崎杏奈¹、山田隆己³、磯崎 要⁴、下東康幸⁴、安保明博⁵、佐々木友亮⁵、箕浦克彦⁶、尹 康子⁶、石田寿昌⁶、岡田芳男¹ (¹神戸学院大・薬、²神戸学院大・LSC、³甲南大・理工、⁴九大院・理、⁵東北薬大、⁶大阪薬大)
- P-040 薬剤耐性 N43D 変異体に対する HIV-1 融合阻害剤の X 線結晶学的研究
○渡部 毅¹、大石真也¹、渡辺健太郎¹、中野博明^{1,2}、中津 亨¹、大野浩章¹、加藤博章¹、泉 和樹³、児玉栄一³、松岡雅雄³、藤井信孝¹ (¹京大・薬、²兵庫医療大・薬、³京大・ウイルス研)
- P-041 マトリックスメタロプロテアーゼ耐性 GPR54 アゴニストの開発
○富田健嗣、大石真也、大野浩章、藤井信孝 (京大院・薬)
- P-042 Tau タンパク質微小管結合ドメイン(MBD)の自己重合における Tyrosine 残基の重要性
○西浦千里¹、箕浦克彦¹、澄田美保²、谷口泰造²、友尾幸司¹、石田寿昌¹ (¹大阪薬大、²行動医科学研)
- P-043 環状ペプチド Hymenamide 類の合成とプライミング作用
○小内美佳¹、杉山大輔¹、長田聰史¹、藤田一郎²、浜崎雄平²、児玉浩明¹ (¹佐賀大・理工、²佐賀大・医)
- P-044 アミノシクロヘキシルカルボニルポリミキシン B (2-10) 類の抗菌活性の検討
○興村桂子、佐藤友紀、大木一弘、大西邦治、佐倉直樹 (北陸大・薬)
- P-045 静電的相互作用を強化したアラメチシンアナログの合成と生物活性
○今村聡子、平 順一、長田聰史、児玉浩明 (佐賀大・理工)
- P-046 イオウミメティックを利用した FPR メチオニン側鎖認識に関する洞察
○長田聰史¹、杉山大輔¹、佐藤桃子¹、浜崎雄平²、藤田一郎²、児玉浩明¹ (¹佐賀大・理工、²佐賀大・医)
- P-047 二量化遊走ペプチドアンタゴニストの合成と生物活性
○杉山大輔¹、平河雄喜¹、長田聰史¹、藤田一郎²、浜崎雄平²、児玉浩明¹ (¹佐賀大・理工、²佐賀大・医)

- P-048 HIV 膜融合阻害剤におけるヘリックス誘起モチーフの構造活性相関研究
○渡辺健太郎¹、伊藤紗織¹、大野浩章¹、泉 和樹²、児玉栄一²、松岡雅雄²、大石真也¹、藤井信孝¹ (¹京大院・薬、²京大・ウイルス研)
- P-049 4-イミダゾリジノン構造を含有する endomorphin-2 同族体の合成とオピオイド活性
○安保明博、小松拓史、丹野 慧、佐々木有亮 (東北薬大)
- P-050 DBP-maf 由来ペプチドの合成と構造活性相関研究
○河野悠介¹、鶴山 愛¹、藤田秀司¹、永野富郎¹、千葉一裕²、中田栄司³、宇都義浩³、堀 均³、松浦成昭⁴、鬼塚伸也⁵ (¹JITSUBO(株)、²東京農工大学院・農、³徳島大学大学院・ソシオテクノサイエンス研究部、⁴大阪大学大学院・保健、⁵長崎医療センター)
- P-051 δ-オピオイド受容体活性化における必須構造要素としてのヒスチジン残基
○松尾崇史、李 京蘭、磯崎 要、野瀬 健、下東康幸 (九大・院理・化学)
- P-052 プリオンタンパク質の分子間相互作用を阻害する N 端テトラリピート結合 αヘリックスペプチドの分子機構
○古賀啓太、野瀬 健、堀内雄史、下東康幸 (九大・院理・化学)
- P-053 ORL1 受容体スーパーアゴニスト・[Arg-Lys14-15]ノシセプチンの Arg-Lys14-15 残基の Trp 置換の受容体結合および活性化への効果
○西村裕一¹、李 京蘭¹、磯崎 要¹、岡田一志¹、野瀬 健¹、Tommaso Costa²、下東康幸¹ (¹九大・院理・化学、²伊・国立衛生研)
- P-054 がん細胞増殖抑制活性をもつ天蚕由来ヤママリンの構造-機能相関
大谷内啓介¹、神谷昌克¹、横山卓也²、王 墨非²、相沢智康²、出村 誠¹、鈴木幸一³、○河野敬一² (¹北大院・生命、²北大院・理、³岩手大・農)
- P-055 二重鎖ペプチド誘導体による培養細胞-HuH-7、NB-1 や A431-の増殖阻害にあたるジアステレオマー効果について
○小林茂樹、田中志織、石上愛子、知久馬敏幸 (昭和薬大)
- P-056 環状ペンタペプチド骨格を有する CXCR4 アンタゴニストの構造活性相関研究:新規ファルマコフォアの同定
○田中智博¹、堤 浩¹、野村 渉¹、田部泰章^{1,2}、大橋南美¹、江坂 藍³、落合千裕¹、佐藤 淳¹、糸谷恭子¹、村上 努⁴、大庭賢二⁴、山本直樹⁴、藤井信孝³、玉村啓和^{1,2} (¹東京医科歯科大学・生体材料工学研究所・分子認識分野、²東京医科歯科大学・疾患生命科学研究所、³京都大学大学院・薬学部、⁴国立感染症研究所エイズセンター)
- P-057 シャペロンペプチドの検索
○小嶋 絢、小西元美、西 正敏、秋澤俊史 (摂南大学・薬)
- P-058 環境応答型蛍光団で標識した β-シート型環状抗菌ペプチド:脂質膜中における光物理特性と分子配向
○山田圭一¹、吉原利忠¹、勝 孝²、奥 浩之¹、飛田成史¹ (¹群馬大・院工、²岡山大・院医歯薬総合)
- P-059 ヒト apoA-I C 末端ペプチドの脂質結合における一アミノ酸欠失の影響
○田中俊充¹、中寺麻理子¹、岩田真季¹、田中将史¹、Sissel Lund-Katz²、斎藤博幸¹ (¹神戸薬大、²CHOP, U. of Penn.)
- P-060 昆虫細胞を用いたフェロモン生合成活性化神経ペプチドに対する新規検定系の構築
○河合岳志¹、杉坂亜里沙¹、J. Joe Hull²、松本正吾²、永田宏次¹、田野倉優¹、長澤寛道¹ (¹東大院・農生科、²理研・基幹研究所)
- P-061 Ile 含有エラスチン由来ペンタペプチドアナログを用いた自己集合特性の解析
○前田衣織、蛭名純子、谷口 卓、西原麻千子、白土絵理、岡元孝二 (九工大・情報工)
- P-062 ラミニン α 鎖 G ドメインのループ領域の生物活性
○原 俊博、山田雄二、漆畑俊哉、保住建太郎、吉川大和、野水基義 (東薬大・薬)
- P-063 アミロイド様構造を形成するラミニン由来ペプチドの探索
○田口雄三¹、岡部晃一²、保住建太郎²、吉川大和²、野水基義² (¹東薬大・生命、²東薬大・薬)

- P-064 糖修飾による GLP-1 への分解酵素耐性および薬効持続性付与
○上田太一¹、富田和義¹、野津芳秀¹、伊藤孝臣¹、麓 昌高¹、高倉知朗¹、永留博文¹、三原伸一¹、十亀弘子¹、川本敬子¹、岩崎孝則¹、朝倉賢治¹、大島岳夫¹、花崎浩二¹、瀧本明生¹、西村紳一郎²、近藤裕郷¹ (¹塩野義製薬、²北海道大・先端生命科学)
- P-065 Structural requirement of 7-azabicyclo[2.2.1]hept-2-ene that functions as WIP1 inhibitor
Suhkmann Kim¹, Eun Sik Pak¹, Song Yub Shin², Ka Hyon Park², Joo Hee Jung³, Mi Sook Won⁴, Shin Won Kwang¹, **Jeong-Kyu Bang⁴** (¹Department of Chemistry, Pusan National University, ²Research Center for Proteineous Materials and Department of Cellular & Molecular Medicine School of Medicine, Chosun University, ³Korea Basic Science Institute (KBSI), ⁴Korea Basic Science Institute (KBSI))
- P-066 リポソームとイオントポレシスの組み合わせによるインスリンの皮内送達
○小暮健太郎¹、山本昌彦²、渡辺みすず²、斉藤顕宜³、金村聖志³、原島秀吉²、梶本和昭² (¹京都薬大、²北大院薬、³TTI エルビュー)
- P-067 HIV-1 侵入の動的超分子機構を標的とした低分子 CD4 mimic の創製
○落合千裕¹、山田裕子¹、吉村和久²、田中智博¹、堤 浩¹、野村 渉¹、増野弘幸¹、糸谷恭子¹、柴田潤二²、畑田万紀子²、松下修三²、玉村啓和^{1,3} (¹東京医科歯科大学・生体材料工学研究所、²熊本大学・エイズ学研究センター、³東京医科歯科大学・大学院疾患生命科学部)
- P-068 表面電荷改良リジンデンドリマーのマウス静脈内投与後体内動態特性
○奥田竜也¹、川上 茂²、前家理宏²、山下富義²、橋田 充^{2,3} (¹九大・先端研、²京大院・薬、³京大・アイセムス)
- P-069 グルカゴン-セクレチンファミリー神経ペプチド類の抗糖尿病効果(3)ラット膵β細胞のアポトーシスに対する PACAP およびその誘導体の保護効果ー
○花登順子、栗山和樹、尾上誠良、山田静雄 (静岡県立大・薬)
- P-070 クリプタイド情報伝達機構：両親媒性ペプチドによる分泌機構の解析
○向井秀仁^{1,2,3}、植木暢彦²、染谷和也^{2,4}、川浪正範²、松尾優子²、木山まゆみ²、上條理恵²、菊地美陽³、福原茂朋^{3,5}、宗像英輔³、木曾良明¹ (¹京都薬大・21世紀COE、²三菱生命研・情報ペプチド工学、³筑波大・応生化、⁴東海大・工、⁵循環器病センター)
- P-071 プロリンの導入及び荷電数の増加による抗菌性ペプチドの作用標的の制御
○長田尚樹、井村雄一、松崎勝己 (京都大学・薬)
- P-072 HIV インテグラーゼ阻害活性ペプチドの創製
○中西勇太^{1,2}、駒野 淳³、堤 浩¹、中原 徹^{1,2}、柳澤貴之^{1,2}、鈴木慎太郎¹、大橋南美¹、田中智博¹、野村 渉¹、浦野恵美子^{3,4}、巖 馬華³、藤 秀義³、濱武牧子³、宮内浩典³、森川裕子⁴、星野忠次⁵、杉浦 互³、山本直樹³、玉村啓和^{1,2} (¹東京医歯大・生材研、²東京医歯大・疾患生命、³国立感染研・エイズ研、⁴北里大・北里生命研、⁵千葉大・薬)
- P-073 BACE1 の Arg235 との相互作用の意義とそれに基づく BACE1 阻害剤の設計
○濱田芳男、大田博子、宮本奈緒子、濱田貴司、中西智哉、山崎 萌、Abdellah Yamani、斎藤一樹、木曾良明 (京都薬大・21世紀COEプログラム)
- P-074 ピリジン誘導体を含む BACE 1 阻害剤の構造活性相関研究
○大田博子¹、濱田芳男¹、宮本奈緒子¹、山口亮司¹、Abdellah Yamani¹、日高興士¹、木村 徹¹、斎藤一樹¹、石浦章一²、木曾良明¹ (¹京都薬大・薬品化学、²東大院・総合文化研究科)
- P-075 プラスメプシンを標的としたジペプチドミメティックのマラリア原虫増殖阻害効果
○日高興士¹、木村 徹¹、上村剛史¹、Adam J. Ruben²、Ernesto Freire²、木曾良明¹ (¹京都薬科大・薬、²Johns Hopkins Univ.)
- P-076 R188I 変異型 SARS 3CL プロテアーゼに対するペプチド性阻害剤の合成と評価
○三井寛法、高橋麻矢子、今野博行、野坂和人、赤路健一 (京都府立医大院)
- P-077 天然の非抗微生物配列に対する酸-アミド置換による新規の陽イオン性抗微生物ペプ

チドの作出

- 上野 悟^{1,2}、玉田 靖¹、○加藤祐輔¹ (¹生物研・昆虫、²筑波大・生命環)
- P-078 Tau タンパク質微小管結合部位のフィラメント形成に対するシアニジンとメチレンブルーの阻害様式の差異
○杉野恵津子¹、服部正幹¹、箕浦克彦¹、尹 康子¹、澄田美保²、谷口泰造²、友尾幸司¹、石田寿昌¹ (¹大阪薬大、²行動医科学研)
- P-079 膜破壊性抗微生物ペプチドの増強ペプチド・NP4P の性状解析
○上野 悟^{1,2}、日下耕太郎¹、張 紅¹、皆葉正臣¹、玉田 靖¹、加藤祐輔¹ (¹生物研・昆虫、²筑波大・生命環)
- P-080 同位体ラベルしたアミロイドβペプチド集積体の IR 解析
○小池正紘^{1,2}、奈良雅之³、岡田知子¹、森井尚之¹ (¹産総研、²東京理科大、³東京医歯大)
- P-081 CS α β 型抗微生物ペプチド・ASABF-6Cys-α の分子内ジスルフィド結合の組換えをとまう進化
○皆葉正臣¹、上野 悟^{1,2}、ピライ アジタ¹、張 紅¹、加藤祐輔¹ (¹生物研・昆虫、²筑波大・生命環)
- P-082 MALDI-TOF MS を用いたマウス下垂体 POMC 関連ペプチドの相対的定量およびストレス解析への応用検討
○青木悠人、井口和明、今井佑香、相曾健一、野瀬彩登美、星野 稔 (静岡県大・薬)
- P-083 蛍光基質を用いたアンジオテンシン変換酵素 (ACE) 活性測定の臨床への応用
○安東勢津子¹、松原公紀¹、張 波²、朔啓次郎²、渡邊路維³、渡邊英彦³、青柳東彦⁴ (¹福大・理・化、²福大・医、³渡辺化学工業、⁴九州栄養福祉大)
- P-084 アクチン由来ペプチド YPIEHG は抗不安作用を示す
○吉田真理子¹、大日向耕作¹、吉川正明^{1,2} (¹京大院・農、²阪大院・工)
- P-085 novokin (RPLKPW) の抗糖尿病作用
○村木 彩¹、藤原容子¹、大日向耕作¹、吉川正明^{1,2} (¹京大院・農、²阪大院・工)
- P-086 成熟ラット脊髄膠様質ニューロンにおけるグルタミン酸作動性興奮性シナプス伝達は PAR-2 や PAR-4 よりも PAR-1 の活性化ペプチドによってより有効に促進される
○藤田亜美、柳 涛、青山貴博、友廣大輔、中塚映政、熊本栄一 (佐大・医・生体構造機能学)
- P-087 成熟ラット脊髄膠様質ニューロンのシナプス伝達に対するガラニンの作用
岳 海源、藤田亜美、柳 涛、朴 蓮花、水田恒太郎、中塚映政、○熊本栄一 (佐大・医・生体構造機能学)
- P-088 Template-Assisted Peptide Aldehyde Ligation を用いた新規 HIV-1 膜融合阻害剤の創製
○田中理紀¹、渡辺健太郎¹、大野浩章¹、泉 和樹²、児玉栄一²、松岡雅雄²、大石真也¹、藤井信孝¹ (¹京都大・薬、²京都大・ウイルス研)
- P-089 異常プリオンを引き起こすアミロイド性のコアとなるβ構造に関する探索
○佐伯政俊^{1,2}、日高雄二²、奈良雅之³、森井尚之¹ (¹産総研、²近畿大、³東京医歯大)
- P-090 アミロイドβに対する系統的チロシン変異体を用いたアミロイド中の分子間配向の解析
清水洋輔^{1,2}、森井奈保子^{1,3}、小中原猛雄³、田之倉優²、岡田知子¹、○森井尚之¹ (¹産総研、²東大、³東京理科大)
- P-091 PPARγ-リガンド複合体の結晶構造解析及び熱力学的相互作用解析
○丸野孝浩¹、高橋 亮²、吉松忠憲²、長谷川裕樹¹、西内祐三³、内山 進⁴、吉田卓也¹、大久保忠恭¹、福井希一⁴、小林祐次⁵ (¹阪大院・薬、²湧永製薬、³ペプチド研、⁴阪大院・工、⁵大阪薬大)
- P-092 beta-lactoglobulin 由来の beta-lactotensin (His-Ile-Arg-Leu) は経口投与により摂食抑制作用を示す
○侯 依静¹、大日向耕作¹、吉川正明^{1,2} (¹京大院・農、²阪大院・工)
- P-093 作用持続型 Vasoactive intestinal peptide (VIP) 誘導体の開発とその医薬応用検討

- 尾上誠良、三坂眞元、佐藤秀行、大森由貴、山田静雄（静岡県立大学大学院 薬学研究科 機構薬剤学）
- P-094 (+)-ネガマイシンおよびその誘導体の効率的合成
○田口晃弘¹、西口茂信²、Thomas Regnier²、小関 稔²、野出 學²、木曾良明²、林 良雄¹（¹東京薬大・薬、²京都薬大）
- P-095 リジンから調製された homobislactone を利用した側鎖修飾乳酸ポリマーの開発
小寺宏美¹、西下直希²、安井裕之³、平野義明⁴、木曾良明¹、○林 良雄^{1,5}（¹京都薬大・薬品化学、²大阪工大・工、³京都薬大・代謝分析、⁴関西大・化学生命工、⁵東京薬大・薬）
- P-096 アペリン EIA 系の確立とラット視床下部、下垂体におけるアペリン様免疫活性
○相曾健一、井口和明、野瀬彩登美、青木悠人、星野 稔（静岡県大・薬）
- P-097 フィブロネクチン由来 PHSRN 合成ペプチドの角膜上皮伸長作用に対する配列特異性の検討
○服部篤司^{1,4}、保住建太郎¹、高 知愛²、近間泰一郎³、大見川香代⁴、加藤隼太⁴、石田一海⁴、星 範男⁴、野水基義¹、西田輝夫²（¹東薬大・薬・病態生化学、²山口大・医・眼科、³山口大・医・眼病態、⁴日本点眼薬研究所）
- P-098 EGF レセプターの二量化を阻害するペプチドの設計と合成
○水口貴章¹、内村浩正²、柿澤多恵子¹、木村 徹¹、横山茂之^{3,4}、木曾良明¹、齋藤一樹^{2,3}（¹京都薬大・薬品化学、²京都薬大・プロテオーム支援室、³理研横浜・生命分子システム領域、⁴東大院・理・生化学）
- P-099 p53 誘導性ホスファターゼ PPM1D に対する新規低分子阻害剤の同定
○八木寛陽、中馬吉郎、吉村文彦、谷野圭持、坂口和靖（北大・院・理）
- P-100 GnRH スーパーアゴニストアナログの合成と Caco-2 単細胞膜透過性評価
○五丁森一博、福田常彦（長浜バイオ大学大学院）
- P-101 Antibiotic activity of antimicrobial peptides against drug-resistant pathogens isolated from patients with cholelithiasis
Nari Jeong¹, Ka Hyon Park¹, Byung Kwan Son³, Joon Soo Hahm⁴, Song Yub Shin^{1,2}, **Yoonkyung Park¹**, Kyung-Soo Hahm^{1,2}（¹Research Center for Proteineous Materials (RCPM), Chosun University, ²Department of Cellular·Molecular Medicine School of Medicine, Chosun University, ³Wonkwang University Sanbon Hospital, ⁴Department of Medicine, Hanyang University Hospital）
- P-102 Antibacterial activity, mechanism and enzyme-resistant study of TRICHOGIN GA IV and its analogues against various MRSA strains
Jin-Young Kim², Lorenzo Stella³, Claudio Toniolo⁴, **Yoonkyung Park^{2,3}**, Kyung-Soo Hahm^{1,2}（¹Department of Cellular·Molecular Medicine, College of Medicine, ²Research Center for Proteineous Materials (RCPM), Chosun University, ³Dipartimento di Scienze e Tecnologie Chimiche University di Roma Tor Vergata Via della Ricerca Scientifica, ⁴Institute of Biomolecular Chemistry, Padova Unit, CNR, Department of Chemistry, University of Padova）
- P-103 *Vibrio alginolyticus* のコラゲナーゼを誘導する基質ペプチドの探索
○村田悠実^{1,2}、松下 治²、小出隆規¹（¹早大・先進理工、²北里大・医）
- P-104 肝類洞内皮細胞の接着を促進するラミニン-111 由来ペプチドの探索
○秋月種康、高濱佑見子、保住建太郎、吉川大和、野水基義（東薬大・薬）
- P-105 ラミニン $\alpha 2$ 鎖 N 末端の活性ペプチドスクリーニング
○林 剛光、石川晶也、保住建太郎、吉川大和、野水基義（東薬大・薬）
- P-106 刺激応答型ペプチド結合切断デバイスの反応速度に与えるアミノ酸配列の影響
○重永 章、西岡直美、山本 純、平川寛子、住川栄健、山口圭子、大高 章（徳島大院・薬）
- P-107 二量化設計ペプチドによるアミロイド β ペプチドの線維化促進と細胞毒性
○井口里紗、高橋 剛、三原久和（東工大・院生命理工）
- P-108 アミロイド β ペプチド (A β) 配列挿入タンパク質の構築と A β の集合化阻害
○村越祐子、高橋 剛、三原久和（東工大・院生命理工）
- P-109 Syndecan-4V cytoplasm fragment has selectivity to the membrane compositions

- Siwon Kim¹**, Sangmi Lee¹, Weontae Lee², Suhkmann Kim¹ (¹Department of Chemistry, Pusan National University, ²Department of Biochemistry, Yonsei University)
- P-110 *α*-アシルイソペプチド法を利用したクリックペプチド：水溶性アナログからアミロイドβペプチドの産生
○谷口敦彦¹、相馬洋平^{1,2}、スクワルチンスキー マリウス^{1,3}、岡田琢磨⁴、池田恵介⁴、プラカシュ ハラン⁵、向井秀仁¹、木村 徹¹、林 良雄^{1,6}、廣田 俊⁵、松崎勝巳⁴、木曾良明¹ (¹京都薬大・薬品化学分野、²シカゴ大、³クイーンズランド大、⁴京大院・薬学研究科、⁵奈良先端科学技術大学院大・物質創成科学研究科、⁶東京薬大・薬品化学分野)
- P-111 クモ毒 NPTX-594 とグルタミン酸受容体との相互作用解析を指向した研究
○西丸貴弘¹、森山隆太郎¹、和田哲之²、吉田 繁¹、島本啓子³、西澤幹雄⁴、伊藤誠二⁵、山口仁宏¹、若宮建昭¹ (¹近畿大・理工、²近畿大・薬、³サントリー生有研、⁴立命館大・生命科学、⁵関西医大・医)
- P-112 アゾベンゼン亜鉛フィンガーペプチドによる DNA 結合の光制御
○野村章子、岡本晃充 (理研・基幹研)
- P-113 ケージド RGD ペプチドの合成と生理活性の光制御
○達 吉郎、大室有紀 (産総研)
- P-114 多成分蛍光標識法による EGFR 結合ペプチドのスクリーニング
○山本貴博 (岡山大学・工学部・生物機能工学科)
- P-115 側鎖に Zn, Cu SALOPHEN 錯体を有するアミノ酸の設計と合成
○川内絵未、安東勢津子、松原公紀 (福岡大理・有機生物化学 P)
- P-116 固相上での簡単な無保護 DOTA のペプチドへの修飾法と ⁶⁸Ga-DOTA-somatostatin の合成
○長谷川功紀、金山洋介、西村三恵、佐古健生、和田康弘、渡辺恭良 (理研・分子イメージング)
- P-117 蛍光性 CXCR4 特異的プローブのスクリーニング及びイメージングへの応用
○田中智博¹、野村 渉¹、田部泰章^{1,2}、堤 浩¹、落合千裕¹、佐藤 淳¹、糸谷恭子¹、大庭賢二³、山本直樹³、玉村啓和^{1,2} (¹東京医科歯科大学・生体材料工学研究所・分子認識分野、²東京医科歯科大学・疾患生命科学研究部、³国立感染症研究所エイズセンター)
- P-118 4(S)-ヒドロキシプロリンを含むコラーゲンモデルペプチドの不安定化機構の解明
○元岡大祐¹、河原一樹²、佐藤のぞみ¹、土井正光³、内山 進⁴、西内祐二⁵、中澤隆⁶、吉田卓也²、西 義則¹、大久保忠恭²、小林祐次¹ (¹大阪薬大、²阪大院・薬、³和歌山高専、⁴阪大院・工、⁵ペプチド研、⁶奈良女・理)
- P-119 ジケトピペラジン型微小管作用薬を基盤としたビオチン導入型光応答性分子プローブの開発
○山崎有理¹、河野享子²、安井裕之²、木曾良明²、赤松美紀³、Benjamin Nicholson⁴、Gorgafaried Deyanat-Yazdi⁴、Saskia Neuteboom⁴、Barbara Potts⁴、G. Kenneth Lloyd⁴、林 良雄¹ (¹東京薬大・薬、²京都薬大、³京大・農、⁴ニリアス)
- P-120 Rolling Circle Amplification による繰り返し配列 DNA を利用した機能性ポリペプチドの合成
○吉村武朗、大内将吉 (九工大院・生命体工)
- P-121 クリックケミストリーを利用したポスト蛍光標識化に用いるアルキン基含有クモ毒 NPTX-594 類縁体の合成
○森 清枝、西丸貴弘、山口仁宏、若宮建昭 (近畿大・理工)
- P-122 Formation of photo cross-linking adduct between RNA and amphiphilic α -helical peptides with photomet
Soonsil Hyun, Jaehoon Yu (Department of Chemistry and Education, Seoul National University)
- P-123 Tailor-made amphiphilic peptides against hairpin RNA targets: Changes of both spheres of the peptide enhance specificity and affinity
Su Jin Lee, Jaehoon Yu (Department of Chemistry & Education, Seoul National University)
- P-124 脂肪酸修飾によるアルギニンペプチドの細胞内移行促進

- 片山沙綾香、広瀬久昭、二木史朗（京大・化研）
- P-125 pH 応答性コイルドコイルポリペプチドを用いた標的選択的膜融合系の構築
○柏田 歩¹、坪井茉奈¹、松田清美¹、水野稔久²、田中俊樹²（¹日大・生産工、²名工大・院工）
- P-126 微細構造を有するペプチドナノファイバーに特異結合するペプチドのスクリーニング
○澤田敏樹、高橋 剛、三原久和（東工大・院生命理工）
- P-127 熱帯熱マラリア原虫由来の人工抗原を用いたナノ微粒子研究
○奥 浩之¹、山田圭一¹、小林京子¹、片貝良一¹、ムハンマド アシュファク¹、花岡宏史²、飯田靖彦²、遠藤啓吾²、長谷川伸³、前川康成³、矢野和彦⁴、狩野繁之⁴、鈴木 守⁵（¹群馬大院・工、²群馬大院・医、³原子力機構、⁴国際医療センター・研究所、⁵群馬大）
- P-128 タンパク質の蛍光イメージングを目指した新規タグ-プローブシステムの開発
○阿部清一郎^{1,2}、堤 浩¹、養 友明^{1,2}、長谷山正樹¹、大橋南美¹、田中智博¹、野村 渉¹、玉村啓和^{1,2}（¹東京医歯大・生体材料、²東京医歯大・大学院疾患生命）
- P-129 自己組織化 β -hairpin ペプチドを用いた刺激応答性ハイドロゲルの創成
○西下直希¹、森本佳孝¹、岡 勝仁²、平野義明³（¹大阪工大・工、²大阪府大・総合、³関西大・化学生命工、HRC）
- P-130 生理活性ペプチド-オリゴ乳酸複合体を用いたポリ乳酸系スキャホールドの修飾
○柿木佐知朗^{1,2}、江橋 具^{1,2}、山岡哲二^{1,2}（¹国循セ、²JST-CREST）
- P-131 新規リフォールディング剤の効果の検討
○埜 幸作¹、伊藤 廉¹、葛西祐介¹、山田英俊¹、芝野智久¹、白木賢太郎²、日高雄二³、奥村正樹¹、大須賀陽子¹、山口 宏¹（¹関学大・理工、²筑波大・数理物質、³近大・理工）
- P-132 アミノ酸、アミノ酸誘導体を用いた蛋白質結晶化溶液の調整
○芝野智久¹、伊藤 廉¹、白木賢太郎²、日高雄二³、佐崎 元⁴、山崎悠平¹、山口宏¹（¹関学大・理工、²筑波大・数理物質、³近大・理工、⁴北大・低温科学研）
- P-133 高級脂肪酸で修飾したコラーゲンモデルペプチド：新規界面活性剤型化合物の合成
○田中雄二¹、杉山雄介¹、内藤正之¹、桑原順子²、西野憲和³、甲斐原梢¹、秋貞英雄¹（¹九州共立大・工、²福岡工大・工、³九州工大院・生命体工）
- P-134 ドラッグキャリアとしてのハイドロゲルナノ粒子の構造と性質
○小田 真、大庭 亨、伊藤智志、平谷和久（宇都宮大院・工）
- P-135 機能化 TTR アミロイドペプチドを用いた極めて長いナノ線維の構築
○坂井公紀¹、浅海裕也¹、小林祐美子¹、陳 新江¹、中馬吉郎¹、増田卓也²、魚崎浩平²、坂口和靖¹（¹北大院・理・化・生化、²北大院・理・化・物化）
- P-136 合成ペプチドを用いた細胞接着マテリアル
○山田雄二、保住建太郎、野水基義（東薬大・薬）
- P-137 混合ペプチド-キトサン膜の細胞接着に及ぼす影響
○藤森 能、小田切大、保住建太郎、吉川大和、野水基義（東薬大・薬）
- P-138 プロオピオメラノコルチンの発現、精製と結晶化
○渡部健児¹、細川洋平²、伊藤 廉²、Ajoy Basak³、山口 宏²、日高雄二¹（¹近大院・総合理工、²関学大院・理工、³蛋白質化学研究センター）
- P-139 Gly スキャンによるウログアニリンの分子内シャペロン機能の解析
○小西宏典¹、奥村正樹²、佐伯政俊¹、山口 宏²、日高雄二¹（¹近大院・総合理工、²関学大院・理工）
- P-140 Histone H3 N-terminal peptide directly binds to its own messenger RNA : A possible mode of feedback inhibition to control
Kyung Hyun Lee, Soonsil Hyun, Jaehoon Yu (Department of Chemistry and Education, Seoul National University)
- P-141 ペプチドアフィニティカラムによる特異抗体の効果的な除去
○畠中孝彰¹、伊東祐二¹、Preeti Soni²、坂元孝太郎¹、林田 潤¹、橋口周平¹、杉村和久¹（¹鹿児島大学・工学部・生体工学科、²JST 宮崎）
- P-142 光分解性保護基を用いたジアシルグリセロール-ラクトン誘導体の合成と機能評価

- 芹澤雄樹¹、野村 渉¹、大橋南美¹、奥田善章^{1,2}、松本洋典^{1,2}、堤 浩^{1,2}、古田寿昭^{1,3}、玉村啓和^{1,2} (¹東京医歯大・生体材料、²東京医歯大・疾患生命、³東邦大・理)
- P-143 ペプチド核酸による協同的ストランドインバージョン
○杉山 亨¹、今村保忠²、栗原正明³、橘高敦史⁴ (¹東大院・総合文化、²工学院大・工、³国立衛研、⁴帝京大・薬)
- P-144 ジフェニルホスホネート誘導体を担持した温度応答性ポリマーによるキモトリプシン様セリンプロテアーゼの単離
○萬崎史恵¹、畔田博文²、尾山 廣³、小野 慎¹ (¹富山大院工、²富山高専、³日本薬科大学)
- P-145 光によって活性化される分割型緑色蛍光タンパク質の設計
○坂本清志、荒木保幸、和田健彦 (東北大・多元研東北大・多元研)
- P-146 配列選択的にシトシンをメチル化する分割型メチル化酵素の開発
○野村 渉¹、玉村啓和¹、Carlos F. Barbas, III² (¹東京医歯大・生材研、²スクリプス研究所)
- P-147 量子化学計算による主鎖共役性ペプチドの理論的設計
川口拓也¹、平野義明²、○岡 勝仁¹ (¹阪府大・総合教育、²関西大・化学生命工)
- P-148 α -ヘアピン構造の水溶液系における分子動力学計算
川口拓也¹、平野義明²、○岡 勝仁¹ (¹阪府大・総合教育、²関西大・化学生命工)
- P-149 ファージライブラリを用いたヒト抗体Fc結合ペプチドモチーフの高親和性増強
○梶幸也香、伊東祐二、林田 潤、坂元孝太郎、橋口周平、杉村和久 (鹿児島大学・工学部・生体工学科)
- P-150 ドラッグデリバリーを目指したデブシペプチド-ポリエチレングリコールブロックコポリマーからなるポリマーミセルの合成と評価
○須永浩章¹、奥浩之¹、山田圭一¹、片貝良一²、松尾一郎¹ (¹群大院・工、²群大・インキュベーションセンター)
- P-151 弾性線維ポリペプチド上の2つの陽イオン結合部位：自己組織化と弾性機能への影響
○岡島陽日児¹、田中雄二²、桑原順子³、内藤正之²、前田衣織¹、岡元孝二¹、甲斐原梢² (¹九工大院・生命工、²九共大院・工、³福工大院・工)
- P-152 環状ペプチドの集積によるペプチドナノチューブの構築
○加藤珠樹¹、吉崎 舞¹、桑原順子²、西野憲和¹ (¹九工大院生命体工、²福工大工)
- P-153 FLAG ペプチド架橋によるエストロゲン受容体 α 型とエストロゲン関連受容体 α 型の共役ヘテロダイマー構築
○池田 伸、松島綾美、下東康幸 (九大・院理・化学)
- P-154 プリオンタンパク質N端オクタペプチドリピート領域の分子認識
○堀内雄史、服部絵里子、横谷 聡、松島綾美、下東康幸 (九大・院理・化学)
- P-155 ビスフェノールA特異的核内受容体ERR γ ：リガンド結合ドメインにペプチドフラグメントを欠失した2種類の新規アイソフォームの構造機能解析
武田行正¹、劉 曉輝¹、住吉美保²、松島綾美¹、下東美樹²、○下東康幸¹ (¹九大・院理・化学、²福大・理・生物)
- P-156 酵素固定化マイクロリアクターによるタンパク質の迅速加水分解
○山口 浩¹、宮崎真佐也^{1,2}、本田 健¹、前田英明^{1,2} (¹産総研・ナノテク、²九大・総理工)
- P-157 エストロゲン関連受容体 γ 型第7ヘリックスペプチドのLeu側鎖の自由回転による適合誘導型リガンド結合
○松島綾美¹、岡田浩幸¹、劉 曉輝¹、徳永隆俊¹、寺本岳大²、角田佳充²、下東康幸¹ (¹九大院・理・化学、²九大院・農・生物機能科学)
- P-158 光合成反応中心に見られるペプチドモチーフとクロロフィルとの分子間相互作用
大庭 亨、○佐藤哲也、藤郷佳苗、吉岡芳実、土井 馨、伊藤智志、平谷和久 (宇都宮大院・工)

- P-159 線虫 *C. elegans* のインスリン様分子 INS-18 の発現制御機構
○松永洋平¹、玄行-安藤恵子^{2,3}、三谷昌平^{2,3}、河野 強¹ (¹鳥大院・農、²東京女子医大・生理、³CREST・JST)
- P-160 樹脂固定化ペプチドを用いる水系溶媒中での触媒的不斉合成
赤川賢吾、赤羽 創、藤原巧真、山下拓大、坂本清志、○工藤一秋 (東大・生産研)
- P-161 アディポネクチンのオリゴマー化と受容体との相互作用
○福田真弓¹、勝 康浩¹、堀川慶子¹、丸野孝浩¹、高橋 亮¹、熊谷久美子²、内山進³、吉田卓也¹、大久保忠恭¹、小林祐次⁴ (¹阪大院・薬、²ペプチド研、³阪大院・工、⁴大薬大・薬)
- P-162 ヒト PPM1D の選択的スプライシングバリエント PPM1D430
○中馬吉郎、栗橋 渉、水上洋平、梨本健紘、八木寛陽、坂口和靖 (北大院・理・化)
- P-163 蛍光修飾ヒトプリオン関連ペプチドの設計と合成およびプリオンタンパク質との相互作用
○平田晃義¹、大山貴史¹、宮島 翠¹、河西和雄²、横山 隆²、毛利資郎²、軒原清史¹ (¹ハイペップ研究所、²動物衛生研究所プリオン病研究センター)
- P-164 カイコガのフェロモン生合成活性化神経ペプチド (PBAN) の活性型および不活性型断片の NMR 構造解析
○岡田晃季¹、河合岳志¹、杉坂亜里沙¹、J. Joe Hull²、本 賢一²、松本正吾²、長澤寛道¹、永田宏次¹、田之倉優¹ (¹東大・院農生科、²理研・基幹研)
- P-165 ラミニン由来の 2 種類のペプチドを用いたシンデカンを介する細胞接着とインテグリンを介する細胞接着の解析
○小林一樹、保住建太郎、吉川大和、野水基義 (東薬大・薬)